

北海道のアカモズがすみやすい環境は？

ーアカモズの保全に配慮した森林管理の提案へー

北沢宗大^{1,2}・市川 伸²・青木大輔^{1,2}・先崎理之^{1,2}

1. 北海道大学 大学院, 2. 日本渡り鳥保全・研究グループ



背景：絶滅危惧種「アカモズ」

アカモズ *Lanius cristatus superciliosus* は国内にわずか150つがほどこしかいない、国内で最も絶滅の危機に瀕した鳥種のひとつです。

現在の繁殖地は地球上で、本州の3か所と北海道のみに限られており、国内での保全活動が急務です。

北海道では、ある狭い地域に道内のアカモズのつがい数の75%が集中しています。この地域の生息環境を維持することが、アカモズの絶滅を回避する上で欠かせません。



北海道のアカモズ保全上の課題

この地域にすむアカモズの殆どが国有林・道有林¹に生息しています。この国有林・道有林には天然林・植栽林のどちらもが存在し、また植栽年によってさまざまな成長段階の森林が存在します。

¹: 北海道庁所有の森林



天然林



植栽林 (高齡)



植栽林 (若齡)



防風柵の設置

しかしながら、

- ✓ どの森林(天然林, 若齡植栽林, 高齡植栽林)にアカモズが多いのか？
- ✓ 植栽林でどのような管理を行えばアカモズの個体数は増えるか？

といったことはわかっていません。

森林管理様式の変更や、森林の成長による繁殖環境の変化は、アカモズの生息適地を消失させてしまうかもしれません。

そのため、北海道のアカモズの現状は決して安泰ではありません。

目的：北海道におけるアカモズ保全のために...

- ✓ 調査地域でアカモズの個体数を調査し、森林タイプごとに集計することで、アカモズがすみやすい森林タイプや管理様式を解明します。
- ✓ 森林管理者(林野庁・北海道)に対して、「アカモズの保全に配慮した実現可能な森林管理策」を提案します。

調査内容

① アカモズの個体数調査

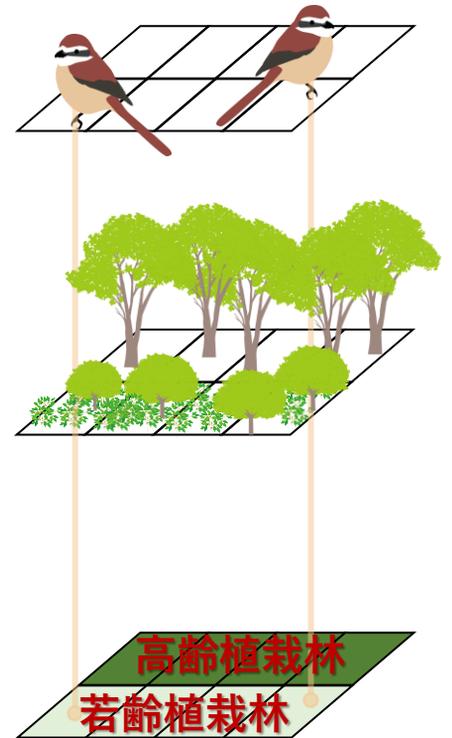
対象となる国有林・道有林(14 km²; 東京ドーム297個分)をくまなく探索し、アカモズの分布地図を作成します。

② 森林のタイプ・管理状況調査

森林管理者への聞き取り調査から、天然林なのか植栽林なのか、いつ植栽したのか、どのような管理が行われているか、を地図化します。そして、現地での植生調査から、優占する樹種や森林の構造などを調査します。

③ アカモズの選好環境の特定

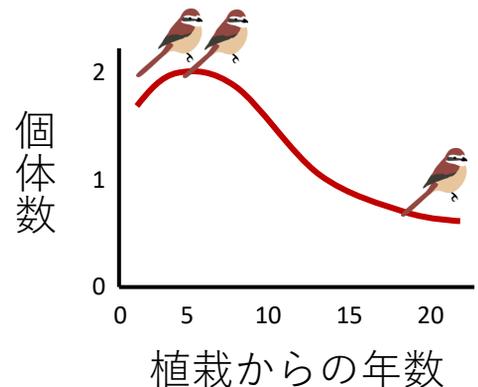
①のアカモズなわばり地図と、②の森林タイプ地図を重ね合わせることで、どんなタイプや管理様式の森林でアカモズが多いのかを明らかにします。



成果のアカモズ保全への活用

もしアカモズが若齢植栽林を好むことがわかった場合、森林の将来的な成長、および森林の成長を促す防風柵の存在により、アカモズの個体数・生息適地が減少する危険性を管理者と共有できます。また、森林の成長に伴う個体数の減少程度を予測できます。

これらの成果から、アカモズの個体数が増えるような森林管理策を管理者に提案します。



必要経費

調査地までの交通費および提案に必要な費用に充てさせていただきます。